

【高等学校用】

和5年度学校評価 中間評価

学校名	佐賀県立伊万里実業高等学校
1 前年度評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 「唯一無二の誇り高き学校づくり」の課題については、両キャンパスともに、具体的な取組に着手し始めたところである。継続した取組になるよう今後の計画を熟考する必要がある。 コロナ禍の中、学校祭や芸術鑑賞会等の行事を合同で行うことができた。一方で、校外活動にはその影響が残っており、オンライン実施も含めて、より効果的な教育活動を創出していく必要がある。
2 学校教育目標	心身ともに健康で逞しく、「至誠」と「礼節」を重んじ、専門的知識・技術を生かし社会に貢献し愛される人材を育成する。
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 心身ともに健康な生徒と安全安心な学校づくり ② 学習意欲を高め、確かな学力習得（修得）と進路実現を図る ③ Society5.0や6次産業化などの次世代を見据え、地域に貢献できる人材の育成を図る

4 重点取組内容・成果指標 中間評価

(1)共通評価項目				中間評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し
●学力の向上	○専門的知識・技術の向上	○アグリマイスター取得生徒5名以上(農林キャンパス) ○専門に関する資格取得数4個以上の生徒80%以上	・実習や実践授業、実験等を通して、目的や目標を明確に示し、できたことをほめることで、学習意欲を向上させる ・課題研究を通して探究活動を充実させる	B	・農林キャンパスはアグリマイスター前期で2名の生徒が取得した。後期に3名以上の取得を目指して指導をしている。 ・課題研究発表会を両キャンパス合同で実施する。文科省事業取り組みで外部有識者にも発表会に参加いただき、内容の充実を図る予定である。 ・商業キャンパスは令和4年度の卒業生においては、全商検定試験3種目以上1級合格者が6種目2名、4種目10名、3種目15名の計27名となっている。今年度も、各種検定試験を積極的に受験しており前年度以上の結果が期待される。
	○基礎学力の向上	○朝の小テストの平均正答率7割以上 ○「小テストや朝の学習が基礎学力向上につながった」と回答した生徒が60%以上	・進路実現に向けた取り組みであることを理解させることで、主体的に学習する意識付けを行う ・学校全体で取り組むことで、学習環境を醸成する	A	・小テストは教科担当者作成の事前教材を用いたことで、生徒の取り組み状況も改善され、正答率は昨年度の67%から82%に向上している(9月時点)。 ・小テストについては、関係科目の授業中や家庭学習の中で、事前に学習できるよう配慮している。現時点で、各学年平均点を維持しているが、学級間での差が大きい。 アンケートの結果「基礎学力向上につながった」と答えた生徒は80%となっている(9月時点)。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「地域貢献活動等を通して、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付けた」と答えた生徒80%以上 ○生徒指導講話(交通安全・防犯・薬物防止)を受講して、「ためになった」と答える生徒80%以上	・開校記念行事登山での清掃活動や地域貢献活動を通して、思いやりや社会性を育成する ・外部講師による講話(交通安全・防犯・薬物防止)を実施し、生徒がそれらの問題に対して関心を持ち、自ら対処できる知識を身に付けさせる	A	・開校記念行事で登山を実施し、現地での清掃活動等を通して社会に貢献する姿勢や社会性を育成することができた。 ・4月に各キャンパスにおいて防犯講話、7月に両キャンパス合同で伊万里警察署より講師を招いて交通安全教育を実施し、危機管理の重要性を再認識することができた。「ためになった」と答えた生徒は90%以上であった。 ・12月に外部講師を招いて実施予定である。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ重大事案件数0件	・いじめ等の対処について、両キャンパスの全職員が同じ意識で取り組むことができるようにマニュアルを作成し、配布する ・いじめに関するアンケートを年間に複数回実施する ・いじめを覚知した場合は、迅速に事実確認を行い、対策委員会を開催して組織的に対応を図る	B	・8月に職員研修会をオンデマンドで実施し、両キャンパス共通認識を図った。 ・いじめの認知件数は12件と増加傾向にある。また、重大案件も1件発生した。対処については、未然防止、早期発見、事案対応を行っている。いじめに関するアンケートは2回実施した(県標準様式、学校独自様式)。 ・いじめの覚知後は、対策委員会を通じて学年・学科・部活動顧問・養護教諭・教育相談・生徒指導等で情報を共有して解決を図り、再発防止のための見守りを続けている。 ・教育相談だけでなくスクールカウンセラーに相談しやすい環境づくりに努めた。
	◎★ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	○県内就職率(3年生)60%以上 ○将来、県内で働きたいと考えている生徒(1,2年生)が70%以上	・朝読書の時間「佐賀語」を読む期間を設ける ・インターシップの事前指導で、地元企業調べを実施する	A	・3年生の県内就職率は70%近くに達している。 ・将来県内で働きたいと考えている12年生の生徒も66%いる。 ・コロナ禍の影響でインターシップは実施していないが、総合的な探究の時間に地元企業の調べ学習を行うなど企業研究を行った。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている生徒80%以上」	・保健だよりの10回以上発行 ・食に関するアンケートによる意識調査を実施する	A	・食に関する意識調査アンケートの結果、健康に良い食事をしている生徒の割合は9割近いという結果であった。食べ物の好き嫌いはあるものの、栄養バランスや毎日3食を意識した食事を心がけているようである。 ・保健だよりを毎月発行し、熱中症、感染症予防の啓発に加えて、健康を保つために必要な食の大切さについても呼びかけた。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・定期的に通学路において自転車等の登校指導を行う ・交通安全講話の実施	B	・自転車等の登校指導を全職員で協力して行い、交通事故は1件のみの発生であった。 ・7月に交通安全講話を実施し、交通安全に関する正しい知識と判断力を育てるとともに、社会の規範意識を高めることができた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する	・定時退勤日の設定及び呼びかけ ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定	B	・両キャンパスともに時間外在校等時間の月平均は36時間(上限の45時間超過者割合約30%)である。昨年と比較して若干減少しているが、県平均を上回っている。 ・毎週水曜日を定時退勤日に設定しており、多くの部活動も休養日としている。 ・8月14日～16日の3日間を学校閉庁日とし、ほとんどの職員が直前の週休日と合わせて連続5日間以上の休養を取得した。 ・部活動休養日については、課業日1日・週休日1日以上を原則として、ほとんどの部活動が適切に休養日を設定している。しかし、大会前などは休養日の不足が見られた。
	○校舎制学校における業務の効率化	○キャンパス間の密な連絡を定着させる	・校務分掌や学年単位で両キャンパスの情報交換を充実させる	A	・両キャンパス合同会議については、日頃より各分掌等で連絡を取り合いながら随時実施している。今年度からは、オンラインにより運営委員会、職員会議共に両キャンパス合同で実施している。 ・始業式や終業式など、節目となる行事は両キャンパス合同で対面により実施できるようになった。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し
○ICT利活用	○職員のスキルアップと生徒の学習用PC利活用率の向上	○電子黒板または学習用PCを活用した授業の実施率80%以上(教員) ○課題研究での学習用PCの活用率80%以上(生徒)	・効果的なICT機器の活用(教科指導において、効果的な場面で電子黒板等を活用) ・課題研究において、記録、発表スライドの作成等で学習用PCを活用する	A	電子黒板は活用するものから、なくてはならないものに先生方の意識が変わっている。課題研究や農業と環境など、探究活動に取り組む授業では、学習用PCは必須となっている。
★唯一無二の誇り高き学校づくり	【農林キャンパス】 ★農業を通じた地域連携活動や交流活動の推進	★「農業を通じた地域連携活動や交流活動ができている」と答えた生徒80%以上	・SAGASマート・ラーニング(SSL)を通して「人と環境に優しい農業教育」に取り組む	A	・第1回学校魅力強化委員会を5月に実施し、今年度のSSL実施計画を確認した。本事業の取り組みについては、佐賀県教育委員会ホームページに掲載することで、県内外に学校の魅力を発信している。 ・本校の森林環境科の「木の魅力を発信する、木の有効利用と地域連携」の取り組みについては、キャンプ用品メーカーの「LOGOS」による取材が行われ、雑誌に掲載されることとなった。 ・90%の生徒が「地域連携や交流活動ができている」と回答した。
	【商業キャンパス】 ★実践的な授業や実習を通して地域産業(事務、販売、流通分野、IT分野)が求めるスキルを身に付ける	★「地域産業(事務、販売、流通分野、IT分野)で役立つスキルを身に付けた」と答えた生徒80%以上 ★専門教科に関連した検定試験の合格率80%以上	・会社を模した実践型授業を年間複数回実施 ・地域産業界から外部講師を派遣してもらい講話や講演会を実施する	A	・課題研究において、起業家教育に取り組みオンラインで講師とつないでビジネスプラン等の学習を実施している。 ・夏季休業を中心に、年間20回程度講師を招聘しビジネスプランに関する実践的な学習を行っている。 ・96%の生徒が「役立つスキルを身につけた」と回答した。
	【両キャンパス】 ★農業教育、商業教育の学び合いによる相乗効果を生み出す	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合78%以上、教職員の割合85%以上	・学校祭を通して、それぞれの校舎での学びの良いところを知る ・学校だよりを通して、互いのキャンパスの活躍を知る	A	・伊実祭(体育祭・文化祭)を制限なしで実施することで、生徒同士が両キャンパスの魅力をを知るきっかけとなった。 ・これまでに3回の学校だよりが発行され、部活動や農業クラブ活動、商業の各種競技会での活躍を知ることができている。 ・10月に1年生がお互いのキャンパスで学ぶ内容を体験する「キャンパス間交流学習」を実施した。 ・中学生に勧めたいと思う生徒は88%であった。
○学校情報の発信	○広報活動に努め、開かれた学校づくりに取り組む	○学校だよりを年間8回発行 ○学校HPの「キャンパスNews」「キャンパスEvent」を随時更新する。	・学校だよりを発行し、保護者や近隣中学校等に配布する ・学校行事やイベントについての案内にHPを積極的に活用する ・各マスコミに対して、積極的に取材を依頼する	B	・学校だよりは5月15号、6月16号、9月17号を作成した。 ・学校HPは両キャンパスに担当者を設置して各Cの出来事や行事、資格取得等、随時掲載しており、各記事の閲覧回数は平均して300～500回となっている。 ・学校だよりと別行事予定は学校HP掲載と同時に、生徒・保護者に紙面で配付し、各キャンパスの出来事に興味を持つようになっている。 ・本校の代表的な活動については、県のプレスリリースを用いて広報を行った。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり